

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	HBOC 関連乳癌患者に対するリスク低減手術の実施状況と臨床背景因子の検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 肝胆膵・乳腺外科 医師 亀井義明
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2028年3月31日
対象となる方	2020年4月から2025年12月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち術前にHBOC乳癌と診断された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、合併症、既往歴、閉経状態、cStage、治療内容、リスク低減手術の実施状況 等
研究の概要 (目的・方法)	遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)とは、主に <i>BRCA1</i> と <i>BRCA2</i> という遺伝子の変化により、乳癌や卵巣癌などができやすくなる状態です。報告では、乳癌と診断されてから20年の間に、反対側の乳癌ができる割合は、 <i>BRCA1</i> では約40%、 <i>BRCA2</i> では約26%とされています。そのため、将来の乳癌のリスクを下げる目的で、予防的に手術を行うこと(リスク低減手術)が選択肢になります。この研究は、当院でHBOCに関連する乳癌と診断された患者さんに対して、どのくらいリスク低減手術が行われているか、またどのような背景を持つ患者さんが手術を選択しているかを調べることを目的としています。方法としては、これまでの診療録(カルテ)に記載されている情報を集めて振り返って検討します。
個人情報の保護 について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたし

	<p>ます。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。</p> <p>また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院肝胆膵・乳腺外科 宇都宮果歩 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5327